

学術研究院環境生命自然科学学域工学系教員（助教）のテニユア審査基準

令和5年4月12日 工学系教員教育研究業績審査会承認

「岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域工学系におけるテニユア・トラック制実施内規」（以下「実施内規」という）第7条の規定に基づき、テニユア審査の基準について、必要な事項を定める。

1 テニユア・トラック制を導入している教育研究分野共通の事項
テニユア審査は、以下の観点で審査する。

(1) 教育活動

講義や実験・実習の担当，学生指導上の実績及び教員としての資質等を評価する。

(2) 研究活動

著書，論文，学会活動，受賞・各種研究費獲得などの観点で評価する。

(3) 社会活動

社会貢献（国際貢献や公開講座など）の観点から評価する。

(4) 管理運営

管理運営上での貢献（全学，学域，研究科，学位プログラム，教育研究分野等）で評価する。

2 その他の留意事項

(1) テニユア審査にあたっては、教員の活動評価結果を参考にすることができる。

審査対象期間中の教員の活動評価結果が、各評価実施単位で定める最低基準を超えていること。

(2) このテニユア審査基準に定めるもののほか、テニユア審査の実施に必要な基準は、テニユア制を導入している教育研究分野単位で別に定める。

(3) テニユア審査基準は、実施内規第7条の規定に基づき、公募要項にて公表しなければならない。

以上

学術研究院環境生命自然科学学域工学系教員（助教）のテニユア審査基準

計算機科学講座
情報通信システム学講座
電気電子機能開発学講座
知能機械システム学講座
先端機械学講座

学術研究院環境生命自然科学学域工学系教員（助教）のテニユア審査基準第2の（2）に基づき、計算機科学講座、情報通信システム学講座、電気電子機能開発学講座、知能機械システム学講座及び先端機械学講座所属の助教テニユア審査基準を、次のとおり定める。

1. 教育活動

講義・演習・実習などで貢献があること。

2. 研究活動

著書・論文，学会活動，受賞・各種研究費獲得などで貢献があること。

3. 管理運営と社会活動

学部・大学院の業務，委員会等活動，入試関係，社会活動などで貢献があること。

[各講座での附則]

2. 研究活動

• 計算機科学講座

査読付論文または査読付国際会議発表：4編以上（内筆頭：2編以上）

• 情報通信システム学講座

査読付論文：4編以上（内筆頭論文：2編以上）

• 電気電子機能開発学講座

査読付論文：4編以上（内筆頭論文：2編以上）

• 知能機械システム学講座

査読付論文：4編以上（内筆頭論文：2編以上）これまでの経歴を考慮して全般的に評価する。

• 先端機械学講座

査読付論文：4編以上（内筆頭論文：2編以上）